

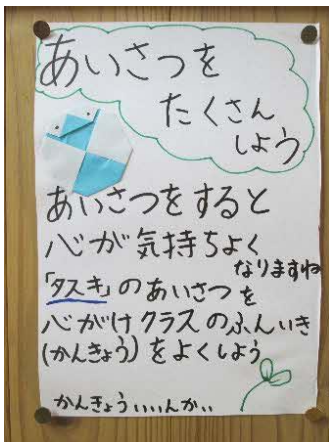
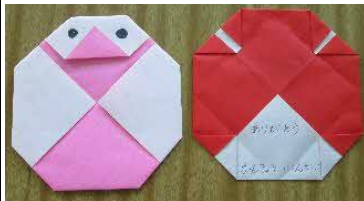
令和3年度（2021年度）学校版環境ISOへの取組

< 山鹿市立菊鹿小学校 >

1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>本年度も、コロナウイルス感染症のため、手洗いを頻繁にしたり、換気をしながら冷暖房をつけたりすることが多くなることが予想された。その中で、これまでの宣言を引き継ぎ、児童の身の回りに目を向け、身近なところから始めることとした。</p> <p>【児童の宣言項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 省資源に努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1)水はコップやバケツに入れて使い、むだ使いしません。 (2)アルミ缶集めを行い、リサイクルをします。 2 省エネルギーに努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1)電気のスイッチをこまめに切ります。 3 環境保全に努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1)そうじやボランティアを一生懸命にします。 (2)花いっぱい、緑いっぱいの学校にします。 (3)学年に応じて、環境学習を行います。 <p>【職員の宣言項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 省資源・リサイクルに努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1)裏面利用や両面印刷し、紙の消費量を削減します。 (2)ごみの分別に努めます。 2 省エネルギーに努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1)照明のスイッチをこまめに切り、消費電力を削減します。 3 環境保全に努めます。 <ol style="list-style-type: none"> (1)校地・校舎の美化に努めます。 (2)各学年の栽培体験活動に積極的に取り組みます。 (3)学校の環境への取組を家庭、地域に伝えます。
行動		<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度の取組を生かして <p>昨年度の6年生が、国語の学習の一環で発信した取組（各班ポスターやちらし等で全クラスへの呼びかけ、クラスの節水名人を見つけようやコンセントを抜こうキャンペーン）は、楽しく環境を考えさせるものだった。しかし、一過性のものであったため、今年は環境委員会が引き継ぎ、「自分たちも、他の子どもたちも、楽しく活動しよう！」という思いで、取り組みをスタートさせた。</p>

行



動

【環境委員会の取組】

①環境マスコット作り

折り紙でひよこを折り、マスコットとした。それに、節電や節水の呼びかけの言葉を書き掲示したり、スタンプラリーの達成者へプレゼントしたりした。

②アルミ缶スタンプラリー

「スタンプラリーをしたら、アルミ缶の回収が増えるのではないか」という、環境委員会の児童の発案でスタンプラリーを行うこととした。アルミ缶を1個でも持ってきてくれたら、シールを1個貼り、3個たまったら給食の時に放送で紹介するとともに、折り紙で作ったマスコットをプレゼントしていった。持ってくる児童はシールを貼ってもらえるのを楽しみにし、環境委員会の児童もアルミ缶がたくさん集まり、うれしい様子であった。

③節水の取組

- ・節水の呼びかけのマスコットを水道の近くに貼ったり、節水の呼びかけを昼の放送で行ったりした。
- ・節水コンクールでは、給食時の手洗いの様子を見てチェックしたことを放送し、節水を呼びかけた。

④節電名人さがし

「あなたも節電名人になろう」の呼びかけポスターを貼り、電気を消したらシールを貼ることにした。自分の名前のところにシールを貼ることを楽しみに節電することができた。

⑤花いっぱい 학교に

環境委員会では、花の水かけや花壇・プランターの花の世話をしている。ゼラニウムを種から育てたり、昨年度のサクラソウのこぼれ種を栽培したりしながら、200鉢ほどの花を育て、廊下や、玄関などに飾り、1年中花いっぱいの学校にすることができた。

⑥あいさつで環境をよくしよう



「あいさつをすると、心が気持ちよくなりますね。『タスキ』のあいさつを心がけ、クラスの雰囲気（環境）をよくしよう」ということを環境委員会の子どもたちが考え、ポスターにして全学級に配布した。心情面での環境まで、子どもたちは意識するようになった。



【その他の取組】

①縦割り班での掃除

1ヶ月で掃除を交代しながら、縦割り班での掃除を行っている。1日目は、上級生が掃除の仕方を指示するが、2日目からは無言で掃除をするようにしている。上級生は、下級生のよい手本になっている。また、掃除場所の担当者が、掃除の仕方が上手な児童を選び「おそうじマスターカード」を渡している。



②いろいろな体験活動（地域の方に教わりながら）

○アイガモ米の栽培

5年生が、米の栽培を行っている。地域の方に教わりながら、温湯消毒から種まき、田植え、稲刈りをする。苗が大きくなった頃には、アイガモを田んぼに入れて草取りと泥のかき回しをさせて、農薬に頼らない米作りを体験している。そのアイガモの日の世話も5年生が行った。

○茶摘みと茶もみ体験

3年生が、総合の時間に茶摘みを行っている。小学校内にある茶畑で、お茶の摘み方の説明を地域の方から教えてもらった。

また、茶業組合の方から、茶もみも教えてもらっている。大きな釜で炒って、むしろの上でもむことを5回繰り返し、お茶を作る体験をした。子どもたちは、お茶づくりの大変さとおいしさを味わった。



○さつまいもの栽培

全学年、一人1本から2本の芋の苗を植え、収穫する体験を行っている。

③PTA活動との資源物回収

菊鹿町全部の家庭に呼びかけて、保護者や児童で集めたビールびん、一升びん（茶・緑）、アルミ缶、新聞紙、雑誌、段ボールを小学校の駐車場で業者に渡した。たくさんの資源物を回収することができた。なお、資源物回収の収益金は、PTA活動や学校行事等で子どもたちのために活用させてもらっている。

④印刷用紙リサイクルの取組（職員室を中心に）

印刷する枚数により、プリンターか印刷機かを選ぶようにし、必要最小限の枚数を印刷するようにしている。ミスプリントの用

		<p>紙は、サイズと種類別に分別して保管するようにし、職員配布用として使用している。ミспrintの裏を利用することで、紙の使用量を減らしている。</p> <p>⑤水かけ</p> <p>天候を考えながら、子どもたちが学級花壇に水かけを行っている。しかし、今年の夏は、梅雨明けが早く雨が降らない日も多かったので、取った草を野菜の苗の根元に置くと、節水になるのではないかと考えた。昨年と同じくらいに植え、水かけも同じくらいの野菜の様子が写真のように違ってきた。(左側が、根元に取った草を置いた野菜) 来年に、生かしていきたい。</p> <div data-bbox="630 674 957 920" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1042 674 1356 911" data-label="Image"> </div>
記 録		<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回のアルミ缶回収に向けて前日には環境委員会の児童が呼びかけを行い、70kgを集めることができた。 ・年間を通して、花のある学校にすることができた。(年に2回、花壇の花の植え替えをした。購入したゼラニウムの手入れを行い、1年中花を咲かせることができた。)
見 直 し		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省の基、今年度はアルミ缶回収量が増えるように環境委員会で話し合い、スタンプラリーと環境マスコットを作ることができた。そのため、環境委員会の児童も楽しく活動し、アルミ缶の回収量を増やすことができた。2学期の反省で、「3学期もスタンプラリーを続けたい。」という委員会の子どもの意見で、3学期も続けることとなった。 ・節電・節水については、トイレの電気の消し忘れがあり、「節電名人になろう」ということで取り組んだ。電気を消した人は、名簿にシールを貼ってもらい、多い人を「節電名人」として表彰することができた。期間が終わっても、電気の消し忘れが減り、子どもたちの節電の意識が高まった。

2 成果と課題

成 果	課 題
<p>【環境委員会の取組】</p> <p>○アルミ缶スタンプラリーを行ったことで、楽しく集めることができ、回収量も増やすことができた。また、環境委員会の子どもたちから「スタンプラリーを続けたい。」という言葉がでるように、意欲を高めることができた。回収したアルミ缶の量は70kgであった。</p> <p>○「あいさつで、クラス的环境を整える」という発想が、環境委員会の児童からでてきた。あいさつと環境の結びつきは考えていないことだったが、心を豊かにする意味でもそのことを広げていきたい。</p> <p>【その他の取組】</p> <p>○地域の方々に教わりながら、いろいろな体験活動ができるように計画をしている。その年の気象状況にも左右され大変なことや、収穫が少ないことなどがあるが、自然を大切にすることの大切さや、食物に対するいろいろな人々の苦労や工夫など、子どもたちが得るものも大きい。今度も続けていきたい取組である。</p>	<ul style="list-style-type: none">・環境委員会の取組の中で、節電や節水に取り組もうとする気持ちは以前より見られるようになったが、まだ電気の消し忘れや水の量が多すぎる手洗いなどが見られる。今後も環境委員会の呼びかけやチェックを続けながら、児童が主体的に行動できるための手立てを考えていく必要がある。・本年度もコロナウイルス感染症の影響で、換気をしながら冷暖房をつけたり、手洗いを頻繁に行ったりする必要がある、目に見える節水・節電にはなっていない。・しいたけの駒打ちなど、コロナウイルスの感染拡大の影響でできなかった体験活動もあった。今後、コロナウイルス感染症がおさまったときに、児童が地域の人たちとともに活動できるようにしていく必要がある。